

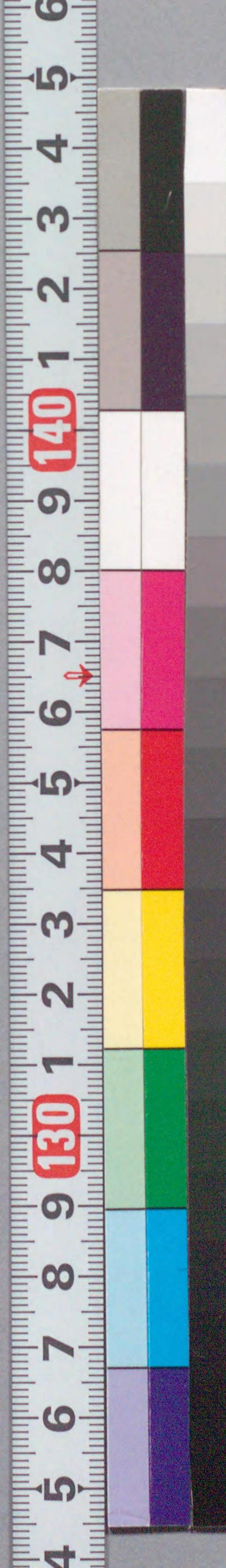


国立国会図書館 落嚙笑富林 207-968

落嚙笑富林

林屋正藏

207
968



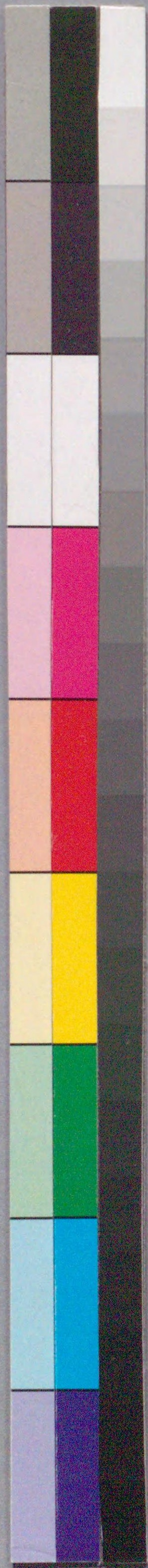
ガラス使用



ぬきあし

林屋正藏作
北尾重政画





德者堪忍
五萬歳



國書入

江戸馬喰町貳丁目
西村屋與八板
北尾重政画
林屋正藏作
落噺笑富林

新本目錄

生齋船	柳亭種彦校合
玉虹樓一泉作	柳川重信画
林屋正藏作	歌川豊國画
笑話の林	同同
の器	同同
笑富林	林屋正藏作
同後編	北尾重政画
林	同同



口上



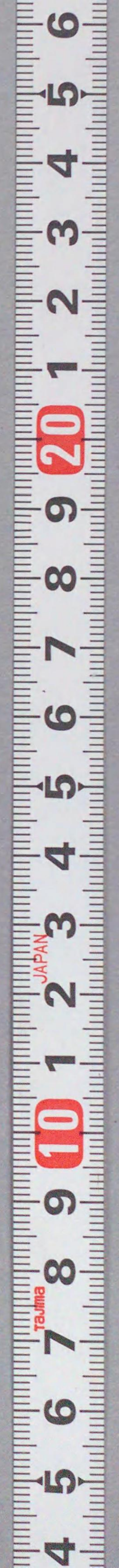
西面國の定席
林屋正藏作





七きん八きん
 さげとも少少の
 重六の一さよるたを
 切る
 けきまきまてまんでも
 格と来て両具の借せと
 りめのがわててを洗くと
 りうち大々ありきたり
 友とあざむけし金手でも
 きるのでも両具とわけてこれらと
 由る八百屋の亭主白丸と丸漬と
 指さるるておふ丸づけやあすひ白丸ある中よ本

今一ツふ
 るたをわき
 三の甲子胡瓜が縁への
 席イ胡瓜
 さいりまね



○御加増

西の国あて百万貫取あたま

河内海の外いひゆき

ふと好むいぬ家来小

早口豆を煮つとふ

の庄さへ入て

何のゆいゆき

てゐるゆき

初まのゆき

豆を煮つとふ



△あやかしめてあてたのこ

あ今日奴等の料理するふが

よろろと相

終る

あう

せんぬ

せんぬ

せんぬ

せんぬ

あまや山のあや

傍にやの山の

かこけらこぞう年改

の如後小まのり出ま

をあらるのゆき

あま小米のるま

かこころん小まの

あま小親も

あま小親も

あま小親も

子あま子かへ



焼ても喰ま

のゆき

きうかま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

の利弁抄

あま

二





今更ら
約て笑
て来や
生天
井が浅
摩の
くら
の産
鹿の床
の間の植物の探幽の山
水その外あちち

△雪隠のあらまのうこの
裏の雪隠がらんがやけか
約て不めやうり雪隠
のかけのの探幽の山
水何れぬまをの
まの銭を
不めまをるの
南のぞの
がのぶ
牛と買ふか
とら



庭の目おへき
老いの不めまの
たい所へや二山の柱
ふん即院が一あめのかちまが
あらふ親おかけてあるさうのわちまめ
何も事おかけのらごころませぬを愛と
ちかて甚だしやアノ礼を一手まら
たつておんせう宛の及ませんといひて見
のあやと賞られますの
来よト
海りるめたりおぢさんか
の角へ

約て牛を漁定てこの
牛の天までも陸
たのま
りたまつて
まいる
りま
かめ
かめ
天角地眼一黒直
頭耳の歯達と賞
るの角へ



みる土のあじき
 又突女房と申
 ぶか男のそと
 ともどのそとめ
 みる土のあじき
 又突女房と申
 ぶか男のそと
 ともどのそとめ

今損とく入れたら
 今日あまのあま
 往亡のへんさう
 一れどもあれが
 一のサヤ
 みる土のあじき
 又突女房と申
 ぶか男のそと
 ともどのそとめ



小天一上上せさる
 みる土のあじき
 又突女房と申
 ぶか男のそと
 ともどのそとめ

色があるま午
 あいそつう申る
 ひま酉で成る
 一やあれの
 みる土のあじき
 又突女房と申
 ぶか男のそと
 ともどのそとめ

つらふは



サア彼岸を歩むつてきたるじの方へも...
 ト母あの中へモウよぬがべん...
 わーがさせぬモウよのどんぢや中をりて親子ニえむ...
 はけふとあのふても折る酒のる...
 ○年玉の趣向
 作者曰朋友故人むらく一年初春年玉の何ぞひ...
 下拙おれ...
 表小繪をかきて...
 張君子(解)小袖の折れ...
 河小りのものちといふ方...

林屋正藏画



御座 朝寐房むらく
 けえねーとよめて...
 ありつた方々へ配り...
 七



さつておみやげと古くも
 たんやいさうふまごころの
 さり身こんでる
 吟ねとよま
 りんごの夜
 もすてま明るね
 たやまの雲のぬ島納豆かんこ
 立如てコリやくあまんと叩てあろ
 た〜又つぬのましまでうまのり豆
 腐のまのあ昔菜のぎんぎんて用糸
 へておらん知れらるるがねのる返着

○書林永壽堂新刻目録

新刊 紙之文言 十本一冊 松陰堂 書 此度再刻

庭訓往來繪抄解 人本一冊 本文大字願書画抄入 未読の奉命お用の書あり

松島名所の繪 前北齋為一筆 以後の松島は松島を名に 年々工も増しりて見えず 唐紙 枚指 見よぬは院書の画あり

聲色早合点 五柳直徳自作 初編 二編 既刊 五渡直國貞画 三編 新刻

立川馬馬作 俳優畸人傳 二冊 歌川國貞画 後者え海あり代りてを記し處所のいふたの 竹葉のさうへ何れも初編と書きしは初編と書 とも少し増しりて初編と書しりて老いし 先初編二編をわけて初編と書しりて表を 次直と出板四方の松島を笑えと書しりて

○新刻折本物左目録

早學用文章當時即周魯晉
隨牘雜文林古状揃女用文章

鬼血丸

信陽 北沢始芳製

壹向ノ水料

銀壹文

右患瘧の瘧ひくる小児の一大厄中て其存じけ一掌よりわつて日たるとかきり
あつて他病と用ひて疾くひたるを月ひてまき六時かきりまらむと
まきくまらむとまきくまらむと

製法禁所

江戸賣所

本問屋

馬喰町二丁目

北澤始芳謹白

西村屋與八

○江戸書林西村水壽堂新鑄書目第二別録

暮夜笠翁作文

中本

かそいふん

雅俗要文

文嘯堂浄書

全一冊

右の書名連年の披考はひ処彫刺追々出来て付来癸巳の冬より賣出

曲亭翁新編戲墨合巻繪草紙畧目

水壽堂精刊

初編 國安画 第二編 豊春画
千代 諸良著聞集 毎編 冊

一編より重政画 進 池田小巻の類稀ある趣向

初編 一編 二編 歌川 國安画

漢廷賽擬選軍談 毎編 冊

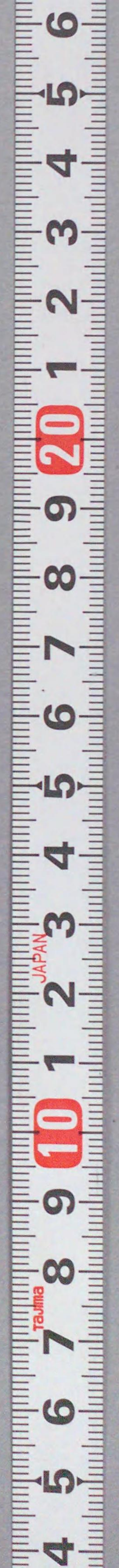
第四編 近画

五渡亭團員画 五渡亭團員画 五渡亭團員画





華語彙編
 卷之二十
 子方商及音開集
 四錄
 文淵堂
 全一冊
 此書係...
 音開集...
 華語彙編...
 卷之二十...
 子方商及音開集...
 四錄...
 文淵堂...
 全一冊...
 此書係...
 音開集...
 華語彙編...
 卷之二十...
 子方商及音開集...
 四錄...
 文淵堂...
 全一冊...
 此書係...



山崎
笑富林

新
笑富林

外題
阿豆

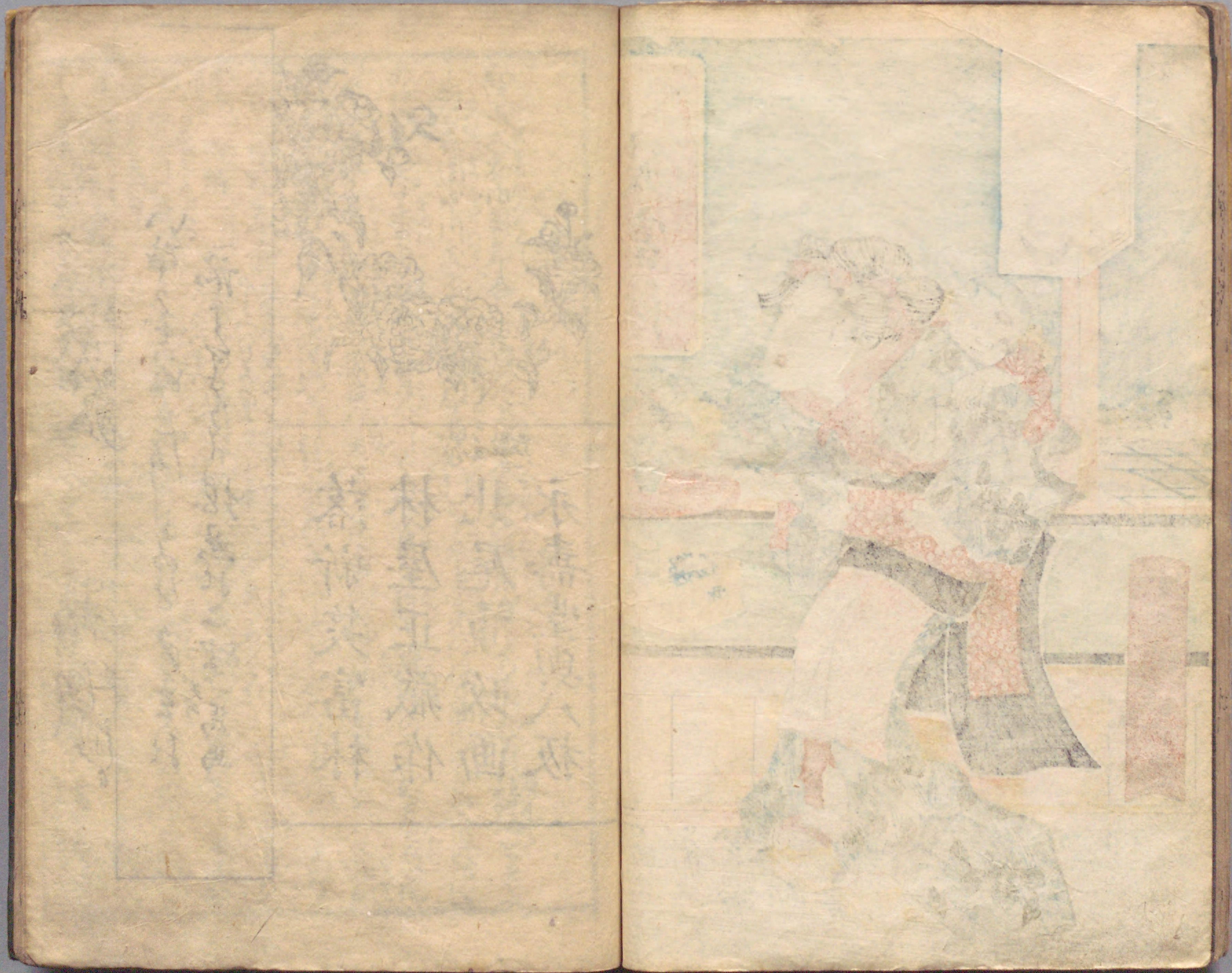
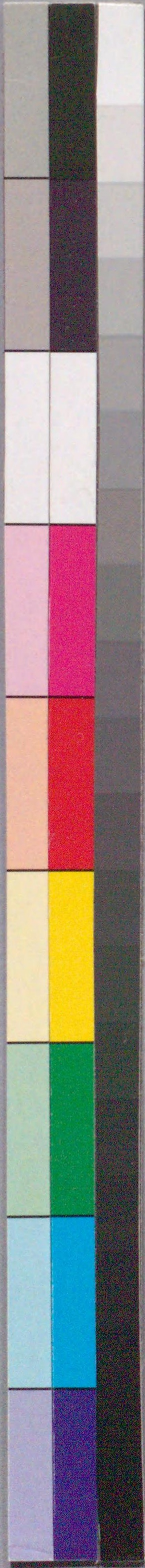
西村屋
與八板



国立国会図書館 落噺笑富林 207-968

ガラス使用







いばらごいぬを海しものを夕まは
 流るるをう 堪思北こま 馬馬



落嘶笑富林
 林屋正藏作
 北尾重政画
 永壽堂與八板

○讀ちぢみ

む市大名市國年々より中濃表の庄用きよつむのれ糖油とを上
 おび道中川支をそ新御用者延しせや板屋元のゆる油は多かきつるに
 わげのてびくは香あはれを中ぎんわく役入氣も程く浮浪のうへに戸表長
 つれるされ医師何事子掛合ハも専ん市重元のゆる油の香あしそれか
 分の山は沢山あるま及桂の皮を引むた香あはしよてをあめりあてれが
 分はうごびたますト
 御用
 如の
 月日役入中
 村役入中





老人皮はくちと居るひ本宿すき藤茶に取をれはは是うらあから
 西 廿三登の六房三番が毛之條糸紙袋の目那にかのらへ一年う子高妻入物の道中
 致六五十三廿一のらと一五百又十三廿ヤからうくそらのかまの
 ちく三十六廿そのら六百二十六のら子ウのらサかまをだもあつる
 橋銀座二丁目の美香香の黒油でめうう廿二のらでがうが生
 かわせぬヤか合だのりこの高妻のりでめうう五百文のこごとけ通
 白髪一本もあサつてこの中十六むさう五百十六とは合解登の
 かまさん且那をかいらく一馬うまのめ合解六十四サ上エへ六百十
 四サのらこのはま合ふ十下タまごります一の由夫婦た子ハイ仕
 合とふどもり三十人孫が八十人ひとが八十人やや子か百人西園橋や
 日本一その外江戸中の橋のり初なるを幾度ある知れま

廿八今ハ孫ひとが名代まんらうりつんはんとあまののやうけんが
 樂陽店サそまのめだたのくそれかての髪も思一程もつくとあ
 るとらうとも見えぬの髪が白くて影のうらのを白髪童顔とあ
 合たままうてうり酒落とあもの髪あまさん髪を思一程
 をたやくと且那が氣がとあたらう子サ肉を着うごり
 ますが是もやうなり坂本氏の仙女香をたえむ用ひて義香香の
 油の功徳サヤとやせきれのく奇麗とのく横町の黒文字子よく
 なるこらうと一後続首吉と出のそまよりの新道の大福なま
 かこ此間ありまのこらう一かあつ毎自分をまらあまのりなれぬ

つら入集

十五

年祝
 中りあのみせ
 なつゝ氣どめいせ
 ありまききのあち
 よう原のらちのり
 けの町肉の
 娘のらちのり
 あちくしんこけ
 ちるりてあまき
 まはごころの

年祝
 中りあのみせ
 なつゝ氣どめいせ
 ありまききのあち
 よう原のらちのり
 けの町肉の
 娘のらちのり
 あちくしんこけ
 ちるりてあまき
 まはごころの



年祝
 中りあのみせ
 なつゝ氣どめいせ
 ありまききのあち
 よう原のらちのり
 けの町肉の
 娘のらちのり
 あちくしんこけ
 ちるりてあまき
 まはごころの



4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

ハイ只今まゝの事すよへんてえんく何ぞとおまゐる
みんまゐるふゆいけりるのふえへいどうつておゐる
○千種万歳めでたく筆を試の春

清書谷金川

活林屋正藏戲作 全北尾重政狂画

此類のおとめつゝの續拙怪談奇談毎年正月二日
より年中休む西国廣小路街上場を定席と物連中
まゐり出立四対り夕七時半時まで披露は仕通りの
中と奇と狂とを以て大江戸の不及日本國中の所交
採方先と評判とを評判



○書林、水壽堂略目録

柳直植先生傳
還魂紙料
古画と寶
御てゝのりえり
家手紙之文言後集
蓮池堂虎書
中本一冊

茶の湯早指南
嶺南先生著
小本全一冊
白澤圖
宋紫石画
東菴筆蹟
幅

新形染彩目
前北齋
為老人画
全一冊
いふ出物と書人へんてえんく何ぞとおまゐる

今様柳竹檢雛形
前北齋為一画
全三冊
小著これがいふ出物と書人へんてえんく何ぞとおまゐる

4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

富嶽三十六景

前北齋
為一翁画
監摺一枚
一枚景の追々出板

い法の富嶽の形その所より方てまう
のてまう或の七里を渡りて見ると
佃より眺るをまうとて一やうな
景一少あを留め人者よ使をい
まれば百もあまふ二十は限る

諸國龍巡り右同画

是もまう准トのとまう

團扇地紙繪

わやくまう一まうがこまうのまう
その外まう一は法紙紙板のまう
相うはまうのまう



蘭玉屑

傷きまうを紙にまう
いまうのまう
まうのまう

西村屋
大黒屋長右衛門

邯鄲諸國物語

江の
巻八冊

柳亭種彦作
歌川國貞画

肱笠雨小春空癖

前四冊
後四冊

柳亭種彦校
歌川國貞画

正本製初編再刻

柳亭種彦作
歌川國貞画

其案改色團七嶋

全六冊

吉見種繁作
歌川國貞画

國字水滸傳

山東京山柳亭種彦仙果追
譯を決て當年上編まう出板
歌川國貞画

天保四年癸巳春新影

京橋銀座一丁目
角坂本式で賣ひ
のめり
のまう
のまう

白木屋白妙
黒井九郎次
徳衣仙女薫

尾川春政画

書林地本問屋

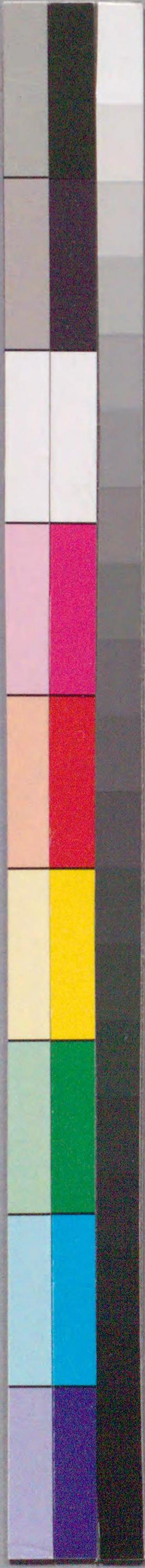
馬喰町
貳丁目

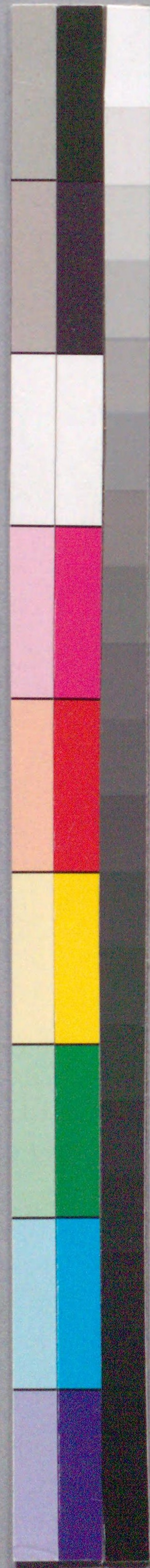
永壽堂
西村屋

207
968

国立国会図書館 落嚙笑富林 207-968

ガラス使用





国立国会図書館 落嚙笑富林 207-968

ガラス使用